

2012年度活動報告

はじめに

新設された NPO 法人は、設立後 2 年間の実績をもとに、要件を満たしていれば 3 年目の事業年度から認定 NPO 法人の認証申請ができることから、認定取得を 2012 年度の最重要課題として位置づけました。申請作業は複雑で、日々の業務と並行して行うことはとても困難でありましたが、幸いにも千葉県の認定取得促進事業の支援により、専門家の指導を受けながら準備をすることができました。

事業が多岐に渡り膨大な作業となりましたが、認定取得の条件を満たすことができ、2012 年度内にこそ間に合いませんでしたが、2013 年度に入って 7 月 17 日に千葉県知事より「認定 NPO 法人」として認められました。

「認定 NPO 法人」は透明な運営が求められ、優良な NPO の証であることから、寄付者は優遇税制を受けられるなどのメリットがあり、活動の安定に役立ちます。今後の運営の上で、必ずや大きな力となっていくでしょう。

引退馬協会と併存する形だった「FPの会」が 2011 年度末を以て幕を閉じ、その時点で移行しないまま退会となった方が多数いたため、2012 年度の最初の半年は大幅な減収を余儀なくされ、当初予定していた活動を縮小する一方、被災馬支援活動や写真展等が功を奏し、信頼や知名度が向上したことにより、2012 年度の後半は会員数の巻き返しがありました。2013 年に基幹となる事業に集中していくための土台作りとなる一年となりました。

1)馬と人のふれあい事業

「馬と人」の関係を身近にしていける「ふれあい」は、前身の「FPの会」の時代からもっとも大切にしていることです。「馬と人のふれあい事業」は、引退馬協会の根幹事業であるフォスターペアレント事業と表裏一体となっています。

1. フォスターホースと過ごす日

千葉県の乗馬倶楽部イグレットにて、年に 5 回開催しました。騎乗や手入れなどを通してフォスターホースの温もりに直に接していただける、会員、一般を問わずどなたでもご参加いただけるイベントとして定着しています。馬たちの日常や個性について語る馬房前トークでは、担当者から直接、馬について語ってもらうことで、フォスターホースへの一層の親しみを感じた方が多かったようです。また、8 月開催時にはバーベキュー、12 月開催時には忘年会も開催し、会員間の親睦を深めることができました。



2. 乗り方・接し方指導

「フォスターホースと過ごす日」を除くと、「フォスターホース(以下、FH)騎乗」はグラールストーン亡きあとはすっかり騎乗者が減りました。トウショウフェノマは腰が悪く、またハリマブライトは小柄で背中が弱いことも

あり、騎乗する方は「フォスターホースと過ごす日」を除き、ほとんどがサマニターフ一頭に集中していました。「フォスターペアレント事業」で後述しますが、2013 年度に入ってサマニターフが永眠したことにより、しばらくは「誰でも乗れる」馬が不在となってしまいました。サマニターフのような馬はすぐにご縁があるわけではありません。気長によい出会いを待ちたいと思います。



3. フォローアッププログラム

本プログラムは引退した競走馬の新たな馬生を支援するための再調教プログラムで、安全に接することができるように馬と人の信頼関係を構築し、適性を見極め、譲渡先へ送り出すプログラムです。本プログラムを受講させたいと思った方が、本プログラムの実施施設（現在は乗馬倶楽部イグレットのみ）に移動する費用を負担、その方が譲渡後の見守りを行うというものです。

こうしたプログラムは海外の引退馬団体でも実施しており、譲渡先と譲渡馬のミスマッチを防ぐために大変有効であると考えています。2012 年度では年間 2 頭の調教と譲渡を計画、2 期生となるボナンザーオペラが千葉県の乗馬施設へ、3 期生となるリュウノスターは群馬県の乗馬施設に譲渡されました。それぞれの馬をプログラムに導いた人が譲渡先とも良好な関係を築き、馬の様子が定期的に報告されています。

ただ、譲渡先がなかなか決まらなかったり、受け入れてもらえるまでに時間がかかったりし、プログラムの当初予算を大幅にオーバーしてしまったことが課題となりました。今後は速やかな移動ができない場合に備えて、余裕を持って予算を組む必要があります。



4. NPO法人ホーストラスト(鹿児島)視察兼ボランティアツアー

活動計画に入っていたボランティアツアーは、事業規模縮小のため実施しませんでした。

5. 北海道ツアー

10 月 12 日～14 日にかけて、二年に一度の「北海道ツアー」を実施しました。フォスターホースのゆかりの牧場や、懐かしの名馬を訪ねるとともに、会員間の親睦を深めました。ツアーにご協力いただいた牧場の皆様にはこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。

このときにハギノカムイオーとフジノマッケンオーを訪ねて本桐牧場様を訪問させていただいたことが、2013 年度の新フォスターホース、エリモシツクの預託を決めるきっかけとなりました。

2) 啓発事業

インターネットをはじめ、さまざまな形で引退馬についての情報発信をしていますが、会の知名度を広めるため、そして引退馬についての関心を高めるために活動しています。

1. あの馬たちの近況報告写真展

引退馬の近況を写真とともに伝える「あの馬たちの近況報告写真展」を、北海道 4 会場(丘珠空港、浦河町立図書館、門別競馬場、札幌エルプラザ)と、大井競馬場で開催しました。馬産地北海道や、大井競馬場での写真展開催の成果は一般に向けての知名度の向上のみにとどまらず、牧場や競馬場関係者に引退馬協会の存在を知っていただくことができました。

また、大井競馬場においては、被災馬の展示を行い、被災馬支援活動の成果をお伝えすることができました。



2. 被災馬記録集

2012 年度内の完成、発行を予定していましたが、編集制作をお願いしていた編集者の健康上の理由で完成させることができず、予約や出版応援のご寄附の受付を始めたにもかかわらず、出版延期となったため、返金の対応を取らせていただきました。

被災馬記録集については支援活動の記録を残すため、「被災馬のきろく」として、2013 年度中の完成を目指しています。

※「啓蒙」という表現は、事業名としてはふさわしくないということから、ここでは「啓発」に置き換えて記載しています。

今後、定款変更の手続きを踏んで「啓発事業」に変更します。

3) 引退馬ネット事業

「引退馬ネット事業」は、引退馬協会の対外支援活動で、「馬のいる風景づくり」の一環として、引退馬の引き取りの相談を受けています。単発的な支援では、預託先探しや契約のサポート等を行っています。

引退馬ネットで継続的な支援を行う対象であるサポートホースは、2012 年度には 2 頭(うち 1 頭は現役馬で、引退時の引き取りに備えるため)増え、合計 11 頭となりました。引退馬ネット事業への相談も会の知名度向上に伴い増えており、随時何かしらの会の立ち上げの相談が来ている状態です。増え続けている相談や事務作業に今後どのように対応していくかも課題になってきています。

1. 荒木牧場功労馬サポーターズ設立運営サポート

ネーハイシーザーが新たに、10 頭目のサポートホースとなり、ブライアンズロマン、エスケープハッチの繋養でおなじみの荒木牧場の荒木貴宏氏が発起人となり、荒木牧場功労馬サポーターズを立ち上げました。敢えて「ネーハイシーザーの会」としなかったのは、現在種牡馬として繋養しているオリオンザサンクスの所有権が荒木牧場に移り、将来、種牡馬を引退したときのため、また、移動の激しい功労馬たちが、万一急な移動を強いられた場合に、一時的に「駆け込み寺」としても利用してほしいとの思いで、敢えて「荒木牧場功労馬サポーターズ」として支援者を募っています。牧場が功労馬を繋養していくひとつのモデルケースになればと期待しています。



※引退馬ネットで長期的にサポートしている馬をサポートホースと呼んでいます。

2. マロンとブランカの助成

マロンとブランカは島根県の乗馬施設が破たんした際に救出された馬のうちの2頭で、北海道せたな町の酪農家に引き取られていましたが、牧場主が移転するにあたり、手放さなくてはならなくなったため、NPO 法人ホーストラスト北海道(北海道共和町)のスポンサーホースとして受け入れていただきました。島根の馬たちを見守ってきた「見守る会」が不足分の口数を負担しなければならず、既に「見守る会基金」が底を尽きてしまったことから、当会の「ペガサスの翼基金」より援助してきましたが、マロンとブランカがホーストラスト北海道にて満口になり、2012年12月をもって「見守る会」を通しての支援は引退馬協会の手を離れました。マロン、ブランカのスポンサーとしてホーストラスト北海道でご支援いただいている皆様に厚く御礼申し上げます。

3. ハッピーライフカバー

馬を行方不明にしないことを目的とし、馬の健康手帳につける「ハッピーライフカバー」の活用が始まりました。被災馬の譲渡時や、フォローアッププログラムを卒業した馬の譲渡時に装着が始まっています。

4) フォスターペアレント(FP)事業

フォスターホースが安定して元気に暮らせるよう会員制度で、フォスターホースを支える引退馬協会の根幹事業です。フォスターホースの繋養、里親制度の運営、フォスターホースに関わる情報発信はすべてFP事業となります。



千葉の乗馬倶楽部イグレットに繋養しているハリマブライト、トウショウフェノマ、サマニターフと、北海道の渡辺牧場のナイスネチャ、セントミサイル、ウラカワミュキがこの一年健やかに過ごせたことを、支えて下さったすべての皆様に感謝いたします。

悲しいことに、2012年度が終了して間もない6月20日、サマニターフが腸捻転により亡くなりました。12歳という、まさに充実期を迎え、どなたでも乗れる穏やかな馬として多くの方に愛されていただけに、若すぎる死が悔やまれます。

2013年度では新規のフォスターホースを受け入れる方針を掲げ、エリモシク、エイシンバーリンのほか、被災馬フォスターホースとしてハーモニイトセチャン(競走馬名不明)、エナコ(トーホクエナジー)、コッチャン(トーセンクレイジー)の5頭を受け入れました。

5) 被災馬支援活動

今まで直接関わってきた、引退馬協会がいったん譲り受けて新しい飼い主さんに送り出した「ハーモニイ」の冠のついた馬たち、原発20キロ圏が警戒区域に指定され封鎖された後に移動した馬たちの見守りが中心となりました。獣医療費や、南相馬市の支援が終了した旧警戒区域の飼い主への飼料援助、移動補助を実施しました。

後に「被災馬フォスターホース」になったハーモニイトセチャンも、乗馬として使えない、調教できない状況が続いたため、脚の治療の補助を行っていました。

原発20キロ圏内が警戒区域として封鎖された後に移動した馬たちは、2011年12月より引退馬協会から南相

馬市に管理が移り、20 キロ圏内への帰厩と今後の譲渡に備え、全頭左肩に肉食処分することを禁じられた証としての「凍結烙印」が行政によりなされました。その後避難所が閉鎖となり、元の飼い主の管理下に戻った後も、馬の移動が南相馬市内でのみしか許可されず、譲渡予定の馬たちの移動が進まなかったことから、つなぎの支援として飼料代の補助を行いました。沼田代表が何度も南相馬市に足を運び、行政との話し合いにも出席、最後は飼い主さんが事後承諾をさせる形でようやく移動が始まりました。

このとき、後に被災馬フォスターホースとなったエナコについて、気性的に、また、避難所での怪我が原因で譲渡が難しいことから、かつての引退馬協会のボランティアスタッフから行く末についての相談を受け、どのように繋養していくかを模索していました。

2012 年の被災馬支援活動は大きな動きがなかったものの、2013 年の「被災馬フォスターホース」へとつなげる覚悟を決めるための一年でとなりました。

6) その他の事業

営利事業として行う「その他事業」については、アマゾンのアソシエイトプログラムに参加してきましたが、当面アフィリエイト以外で実施する営利事業がないことから、アフィリエイト収入をはるかに上回る地方税の均等割りが発生してしまうため、2012 年度限りで撤退します。2013 年も引き続き、引退馬協会のホームページにバナーがありますが、個人に事業を移譲し、寄付として引退馬協会が受け取ることになりました。

2013年度に向けて

設立後の被災馬支援や写真展等、引退馬協会になってからめまぐるしく活動が増えました。これらの活動があったからこそ、会の知名度や信頼を得ることができ、さらには設立から 2 年で認定 NPO 法人の設立の要件を満たすことができ、結果として本来の引退馬協会の基幹事業に集中していくための足掛かりにもなりました。

2013 年度においては、「フォスターホースの繋養」を本幹とし、フォスターペアレント事業、馬と人のふれあい事業、引退馬ネット事業(対外支援)に集中していく方針です。